



目次

要旨

ドライバーモニタリングの必要性

ドライバーモニタリングのエコシステム

幼児置き去り検知

法規制 & 消費者団体

SAE L3/L4の今後の要件

予測



レポート番号：#810-22

ドライバーおよび車室内のモニタリング - 2022年版

エコシステム、技術、市場規模、将来の課題

2022年より欧州において施行される認証要件の影響などにより、ドライバーモニタリング領域における取組み推進の機運は今までにない高まりを見せています。これまでOEM各社ではこれらのシステムを導入する必要がなかったため、同機能に対応しない、あるいはごく基本的なシステムのみを導入する企業が大半でした。しかしながら、新たな要件の導入だけでなく、自動運転レベルの高度化などの影響により、こうした状況は変わろうとしています。適切なドライバーモニタリングソリューションが、より堅牢なSAE L2の実現要因であり、SAE L3における必須条件です。人間とマシン間の安全なインタラクションを可能にするためには、ドライバーを体の姿勢・位置と認知負荷の双方の観点からモニタリングすることが重要となります。2022年版の本書では下記について取り上げています。

- 米国、欧州、中国におけるドライバーモニタリング導入に影響を及ぼす主な要因
- ドライバーモニタリング分野における様々な技術とその長所・短所について解説。さらにOEM各社の最近の取り組みと研究開発の成果を紹介。
- 同分野で活躍しているTier1、Tier2プレイヤーをプロファイリングし、エコシステムの包括的な概況を提供。
- 各地域における市場動向、現在および今後の推進要因に基づく、ドライバーモニタリングソリューションの販売台数とTier1収益の予測

本書では、人間とマシン間の安全なインタラクションを実現するために、ドライバーを身体的および認知負荷面の双方からモニタリングする事に伴う課題について詳説しています。また、適切なドライバーモニタリングソリューションがもたらす、より堅牢なSAE L2の実現、SAE L3の要件について概説しています。

関連レポート

人と物の輸送のためのL4自動運転市場動向 レポート番号: 811

乗用車へのより高度な自動運転機能の搭載が当初期待されていたほど進んでいない事もあり、他のユースケースへの投資が増加傾向にあります。その中の一つが人と物の輸送のための自動運転です。本書では、4つの主要なセグメント（トラック輸送、ラストマイルデリバリー、公共交通機関、ロボタクシー）におけるL4の導入の進捗状況や課題、今後の動向について、技術、法規制、ユーザーの受容度、商用化といった要素に焦点を当て、解説します。

対象市場

欧州 北米 中国
日本 グローバル その他

レポート発行頻度

①
毎年更新 四半期更新 ワンタイム

レポート形態

PDF PowerPoint Excel Online

ページ数

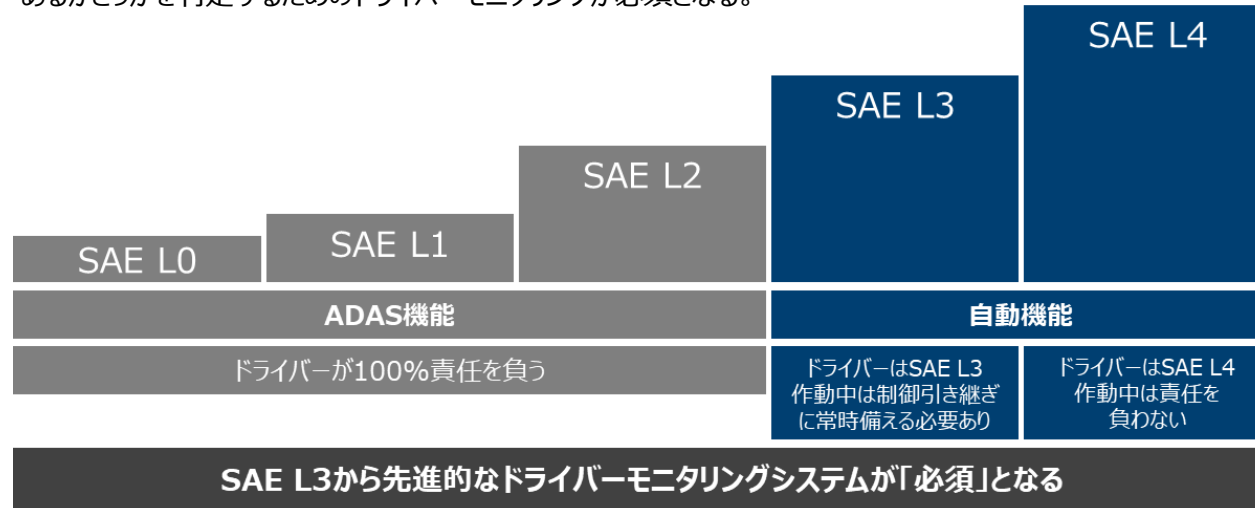
130+

お問合せ



ドライバーモニタリングは高い自動化レベルには「必須」

自動車業界において自動化がより進むことにより、ドライバーの状況認識力や運転スキルの低下につながる可能性がある。システムからドライバーへ操縦を安全に引き継ぐためには、ドライバーが運転可能な状態にあるかどうかを判定するためのドライバーモニタリングが必須となる。

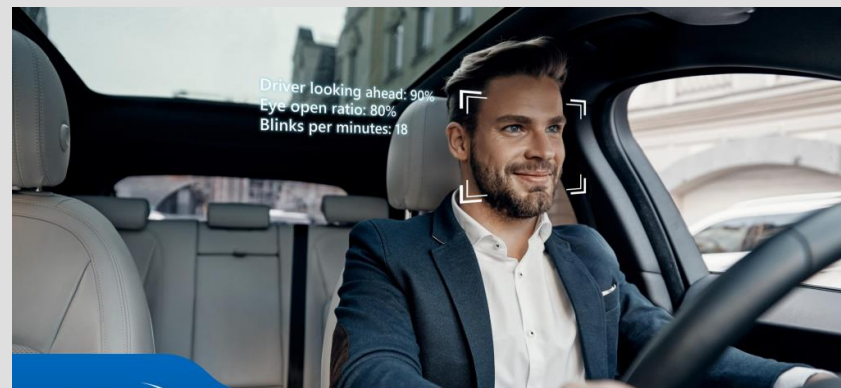


SBDカスタマーポータル

ご契約いただいたレポートへは、お客様専用ポータルサイトからアクセスいただけます。

ポータルサイトのアカウントはご契約企業ごとに作成され、ご契約企業に所属する方であれば登録ユーザー数に制限はございません。

ご契約状況の確認や、ポータルサイトへの新規ユーザー登録をご希望の場合は、SBD Automotive ジャパンまでお問い合わせください。



2022年版
ドライバーおよび車室内のモニタリング
エコシステム、技術、市場規模、将来の課題

発行年月：2022年1月
レポート番号：AUT810-22

本書に関するお問合せ・お見積り依頼

「ドライバーおよび車室内のモニタリング - 2022年版」

お問合せ・お見積り依頼



サンプルレポートの無料ダウンロード

